

一般質問

市政を問う

12月定例議会では、17人の議員が登壇し質問を行いました。



相馬 勝義 議員

ポリテク学生の奨学金制度

市長／他自治体の動向に注視 調査研究する



技術ある人材を栗原に

議員 栗原に立地する、東北能開大で高い技術力を身につけた学生を栗原に定着させるといふ、市にとって長期的に有益な施策は。
市長 有能な学生を定着させるためにも、将来性ある企業誘致が必要。市内外の企業訪問をする中で、私から直接働きかけをする。
議員 奨学金制度の新しい支援策を考えてみては。
市長 支援制度は、市税の一般財源を原資としており

円滑な運営を図りつつ優秀な人材確保に努めたい。

志波姫公民館 建て替え

議員 利用者の代表で構成される検討委員会での意見などの反映と進捗状況は。
教育長 検討委員会での各種団体からの要望も含め、これまで、視察研修など、3回の検討委員会を開催。その中で、姫プラザの有効活用、分割できる会議室、コースなどで使える遮音性の高い部屋など、志波姫公民館整備基本計画に合わせ、反映させていきたい。

エポカ 21 アクア部門の休業

議員 アクア部門の修繕が必要で、多額の費用が必要。再開に向けての予定は。
市長 施設全体の管理運営が厳しい状況ではあるが、経営改善に向けた方策や今後の方針については考えている。アクア部門の天井修繕など大規模修繕が多発しているのに加え、コロナの影響も大きく、企業経営診断結果を考慮しながら今後の方向を示す。



あべ さだみつ
阿部 貞光 議員

農業は危機感を持った対策を

市長／水田農業推進会議の説明を踏まえ



「白神ねぎ」で農家所得向上（JA あきた白神を視察）

議員 宮城県農業再生協議会が示した令和3年度米の生産目安で栗原市は数量・面積とも令和2年比増となる。その要因は

市長 令和2年生産目安は事前契約積み上げ分が加味され、生産量5万667トで令和3年度と比較すると数量で2万467ト減少。

議員 令和2年度目安は4万7217ト、令和3年度目安は4万8191ト、米余りで米価が下落する中、

多く作付けできると理解し
て良いか。

市長 数字を比較すれば若干上がる可能性がある。

議員 米価の安定・農家所得の向上には適切な主食用米生産と転作への取り組みが重要である。令和3年の誘導策を示せ。

市長 宮城県水田農業推進会議の説明内容を踏まえ作成する。

議員 一般社団法人PFI開発支援機構は、ホワイトシャッタープロジェクト事業をスタートしている。参画した自治体にある消防車のサイドのシャッターに民間企業のロゴと文字を入れてその企業が応援したい自治体に寄付するというもので、一般財源を通さず消防独自で使えるという大きいメリットがあり、ホースなどの購入に即座に対応できる。積極的に活用せよ。

市長 今年9月に本格始動され、東北2自治体・全国22自治体を取り組んでいる。地域の消防・救急体制を充実させる魅力的なプロジェクトで、大変素晴らしい提言である。議会終了後、早速具体的な行動に移りたい。

就職氷河期世代への支援強化を

市長／関係機関一体となり支援する



さとう けんじ
佐藤 健児 議員

議員 ①雇用調整助成金はコロナ禍の中で労働者に休業手当・賃金の一部助成が行われる。給付実績は。また、日額など、制度の拡充をはかるべきである。

市長 ②就職氷河期世代（35歳以上55歳未満）の募集や採用が可能となり、令和5年3月31日までの措置。市行政一体での取り組み強化を。

議員 ①11月末現在、築館ハローワークの受案件数、延べ463件。給付人数・金額はわからない。支給期間は、令和3年2月末まで延長、日額上限や助成率の引き上げが維持される。

②県は、「就職氷河期世代活躍支援プラットフォーム」を設置し、県内4箇所就職説明会、就業体験を実施しており、関係機関と連携し支援していく。

議員 宮城県は、児童・生徒1000人当たりいじめ認知件数70・1件と全国で9番目に多かった。

①いじめ・不登校の実態は。
②魅力的な学校づくりとは。
③寄り添った支援には、教諭・補助教諭の増員を。



手厚い就労支援を

教育長 ①令和2年度、10月末現在、いじめ認知件数小学校26件、中学校10件。不登校（年間30日以上欠席）児童7人、生徒47人。主な理由は、無気力や不安で、いじめが理由はいない。

②毎月「生活アンケート」を実施、早期発見・未然防止、また「命を大切にする教育」を実践している。

③市費教諭9人、補助員46人配置し指導の充実を図っている。県に増員要望する。

女川原発再稼働への対応は

市長／立地自治体の判断を尊重した



議員 猛 倉 沼

議員 市町村長会議は村井知事が女川原子力発電所再稼働に地元同意することを容認した。栗原市議会は平成24年12月議会で「東北電力女川原子力発電所の拙速な再稼働を行わないことを

求める意見書」を全会一致で可決している。市町村長会議で市長は議会の意思をどう考慮したのか。

市長 議会での意見書の可決や汚染稲わらや牧草処理が進まない状況にあるが、女川原子力発電所が原子力規制委員会の審査に合格したことや、県と立地自治体の判断は非常に重く尊重すべきと考え、知事の提案をうけ入れた。



放射能汚染稲わら貯蔵施設

菅首相の政治姿勢について

議員 菅首相は推薦のあった学術会議会員候補6名の任命を明示せず拒否した。理由の説明なき任命拒否は、学者を委縮させ、学問の自由を脅かすと言われている。任命拒否の撤回を求めるべきでないか。

市長 説明不足はある。国会の場でしっかりと説明をし、対応していただきたい。

中学校校跡地利用計画を急げ

議員 旧高清水中学校体育館を身近な運動ができる場所として、校庭は公園的な場所として利用したいという思いが強くあるが認識しているか。体育館は原発事故時の避難所となっているが、変わりはしないか。

市長 地域住民の意見は聞いている。避難所の指定は見直しが検討されている。

公約「道の駅整備構想」明確な総括を

市長／「一度、立ち止まり考えたい」



議員 男 範 佐藤



「現状では困難」との意見をまとめた基本構想検討委員会

議員 道の駅基本構想検討委員会の最終意見を、どのように受け止めたか。

市長 「地域立脚型を目指したが、市内からの運営意向はなく、現状では困難」との意見でもあり、一度、立ち止まって考えたい。

議員 一度、立ち止まり考へるとは、具体的には…。

市長 アンケートでは作ってはしいが多数で、反面、市内事業者の引受け希望はなく、市民意識の醸成が不

十分や、コロナ禍で経済状況が不透明など、慎重な対応が迫られるためである。

議員 令和3年度一般会計当初予算は、市長選挙で骨格的予算となるが、道の駅関連予算は計上するのか。

市長 課題が浮き彫りになり整理のため、一旦、立ち止まり考えることにした。政策課題で検討を要するため、当該予算を当初予算に組み込むことは難しい。

議員 市長は、次の栗原市長選挙に立候補を表明した。前回選挙の二大公約の「道の駅整備構想」と「中央病院への産婦人科の開設」を、再度、公約に掲げ、市民の信を問う考えはあるのか。

市長 市立病院での産婦人科の標榜は、リスタを抱えた患者の受け入れや数多くの常勤医師の確保など、この4年間で課題が浮き彫りになった。早い段階で公約を整理し、明示したい。

議員 市長公約は、任期4年間で市民に成果を示すものに限定するべきでは…。

市長 どのような形で4年間を総括するか。熟慮と様々な議論を重ね、検討してまいりたい。



さとう ちあき
佐藤 千昭 議員

地元産材の積極的活用を望む

市長／原則として木質化をすすめていく



栗原産のスギ材

議員 市有林を始め、市内の山林の立木は、樹齢が高く伐採適齢期となっている。地元産材の地産地消の観点から公共建築物での市産材の積極的活用を望むが、

市長 木材の利用に関する法律に基づき、利用促進に関する方針を策定し、木材利用を促進している。市が整備する低層の公共建築物については、原則として木造とし、今後も積極的に木質化を進めていく。

議員 CLT(直文集成板)の活用を検討すべき。

市長 「施工が早い」「コンクリートより軽い」「断熱性が高い」のメリットがある。今後普及が進み、低価格化が図られるなどその動向を見ながら検討していく。

市内の犯罪減少対策について

議員 市内の「粗暴犯」や「窃盗犯」の刑法犯認知件数はどうなっているか。

市長 平成30年334件、令和元年203件である。

議員 犯罪の減少は、防犯カメラの設置の効果もあると聞く。継続的な設置を望むかどうか。

市長 今後の設置は防犯カメラの効果を検証して、警察署や防犯協会の意見を聴きながら検討していく。

「仮称」六角牧場風力発電事業

議員 全体面積の8割から9割が栗原市花山となっている。配慮書の意見を見ると栗原市の意見が少なく、きつちりと意見を付して対応するように望む。

市長 しっかり対応する。

持続可能な開発目標を示せ

市長／市民の意見を聴き検討



みづもと まさひろ 議員

議員 「持続可能な開発目標」(SDGs)は、2030年に向けた17の目標と達成年限や数値目標を含む「世界共通の目標」だ。今後、策定する市の総合計画は、市民と職員で構成

する「SDGs未来部会」を創設し、市のありたい姿を描く「栗原版SDGs」を策定するべきではないか。

市長 「SDGs未来都市部会」の創設は、令和4年度からの第2次総合計画の策定過程で、「総合計画審議会」や「若者ワークショップ」での意見を聴きながら、長期的で持続可能な開発目標を踏まえ検討する。

議員 2030年のありたい姿を描くには、2030年から逆算して、現時点で何をすべきかを考える「バックキャストリング」の手法を取り入れるべきではないか。

市長 もう一つの手法として、現状の課題から改善策を積み上げる「フォアキャストリング」がある。「総合計画審議会」や「若者ワークショップ」の意見を聴きながら検討していく。

再生可能エネルギー産業振興の戦略示せ

議員 再生可能エネルギー戦略のプロジェクトチームを創設し、栗原の資源を活用した持続型、低炭素型の地域社会のあり方を調査・研究すべきでないか。

市長 今後、国から示されるであろう具体的な施策などを注視し、再生可能エネルギーによる産業振興戦略の計画策定やプロジェクトチームの創設を考えたい。



目にする「SDGs」17色の環状ロゴ

浄土川浚渫を県に要望すべきでは

市長／早急に堆積状況の確認を要望する



議員 佐藤 喜 議員

議員 伊豆沼と内沼を接続する通称浄土川の一部浚渫と改修に関し、地域の声もある。栗原の誇れる観光地である。①水質向上のため流動の必要。県道築館登米線の橋左右150mの河川



浚渫が待たれる浄土川河口

浚渫を県に要望すべきでは。②河川内の法面崩落。県に確認してもらい、最悪時改修要望したいが市の対応は。 **市長** ①県は浚渫に関し堆積状況を調査し流れの影響を判断し検討。早急に堆積状況の確認を要望する。②浄土川左岸の法面崩落を確認。再調査し措置が必要時対策をする。県に必要に応じて対策工事を要望する。 **議員** 市道2級築館南沢線

の拡幅、改良に関し、①築館新田に位置する市道は冬季の凍結、圧雪により事故多発地。カーブ南側拡幅、緩やかな道路に改良。市の早急な対応を求めるが。 **市長** ①幅7m、2車線の改良道路。融雪剤利用と凍結注意の看板を設置。山林所有者に協力要請し日照確保の道路管理に努力する。 **議員** 4市町懇談会での観光連携と岩ヶ崎高校の観光提言に関し、①栗原、登米一関、平泉は観光資源豊富。連携は経済発展の起爆剤。観光連携の構築は。②岩高の栗原市課題解決の発表でアイデア満載の観光提言。真剣に市政に活かすべき。 **市長** ①来年県境4市町は、おかえりモネ、世界遺産登録10周年、奥の細道サミットがあり一体の広域観光推進。自然環境でのワーケーション提案。②若者の視点、斬新なアイデアの情報は共有し市政の参考とする。

病院事業の経営健全化に取り組み

病院事業管理者／地域医療のため経営健全化を図る



議員 澤邊 幸浩



病院事業の経営健全化を

議員 栗原市立3病院病床数適正化において、3病院の機能分担、ダウンサイジングを提唱する中、病院事業の観点から、減床数が経営健全化として適正と言えるか。また、病床数適正化以外に、病院事業運営として着手すべき課題は何か。 **病院管理者** 医療需要も減少傾向にあり、「全体最適な病床のダウンサイジング」を図るため、市立3病院の維持・継続を前提に、地域医療が継続できるように

に経営健全化に取り組む。収入の増加・確保対策として、紹介患者の受け入れ強化、救急医療の充実、病院施設の修繕計画の策定、委託料の削減などが課題となる。 **議員** 栗原市は、築館・宮野地区において生活創造拠点としての、中核機能地域整備を計画しているが、今後計画にあたって、民間の資金、経営能力および技術能力を活用するPFIといった、官民連携方式での事業計画を進めるべきである。 **市長** 中核機能地域整備の基本構想では、民間活力導入の事業手法として、「設計・施工一括方式」や「指定管理者制度」、「PFI方式」など想定しており、民間活力導入を検討する。 **議員** 人口減少を市民が自分たちの問題として捉えられるよう、市民に対し、人口減少がもたらすさまざまな問題点や、その影響による市の将来の姿、今後の課題をわかりやすく具体的に示す取り組みが必要である。 **市長** 人口減少がもたらす課題や、将来への対応と施策を説明する場を設ける。



すがわら ゆうき 議員
菅原 勇喜 議員

道の駅 公園整備は断念せよ

市長／一度立ち止まって考える



県北高速道路交差部周辺（志波姫）

議員 市内事業者へのヒアリングでは「新たな施設よりも、市内既存施設の特徴などを検証し、磨き上げを図りながら地域の魅力を高めるべき」「道の駅の運営に興味を示した市内事業者がない」と報告された。概算工費が27億1200万円と当初の5倍にも膨れ上がっている。事業収支予算も示されたが、事業者がいらない中で試算は全く根拠がなく信頼できない。本

病院事業 減収補填を求めよ
議員 収益減少額4億8000万円は新型コロナウイルスの影響によるものであり、国が全面的に補填するよう求められたい。
病院管理者 この現状を積極的に訴えたい。
議員 栗原保健所存続の具体的な行動はなされたか。
市長 直接知事や県議会議員への働きかけを行っている。

事業は断念すべきである。
市長 コロナ禍で先が見えない状況下でもあり、一度立ち止まって考える。
議員 用地買収費が5億600万円と示されたが、用地の地目、単価はいくらか。
市長 田んぼであるが、買収費は宅地値段で1反当たり、1730万円である。
議員 公園整備の工費、財源計画、完成後の維持管理費はいくらと想定しているのか。
市長 工費、維持費について現時点で示せる状況はない。財源については合併特例債などの優れた財源の活用を検討していく。



歩道設置要望のある「市道元木線」



たかはし かつお 議員
高橋 勝男 議員

栗駒南小前 通学路へ歩道設置を

市長／ゾーン30 カラー舗装で安全確保

議員 令和2年1月15日に、栗駒南小学校前の市道元木線に歩道の設置を求める要望書が市長に提出され、議会でも同内容の請願を全会一致で採択をしている。市の今後の対応は。

市長 要望箇所には、住宅や用水路があり、多額の事業費と時間がかかるので、当面は交通安全対策として、歩行者専用区域を表示する「ゾーン30」の導入と、歩行者専用を表示するため路側帯の「カラー舗装」を考えている。
議員 歩道設置と合わせ、当面の対策も重要である。カラー舗装工事の時期は。
市長 公安委員会に申請後、

1か月位で許可が下りる予定、令和2年度内には完了させたい。

はげまし学園 給食費無償化へ

議員 令和2年4月から実施されている保育所・幼稚園同様に「栗原市立はげまし学園」園児の給食費も無償化すべきである。
市長 はげまし学園は、障害福祉サービスの児童発達支援を提供する施設であり、給食費については負担を頂いている。しかしながら、保育所、幼稚園と同様に子育て世代の負担軽減の観点から無償化に向けて取り組んでいく。

議員 いつから無償化にするのか、保育所、幼稚園と同様に令和2年4月にさかのぼって無償化をすべきではないか。
市長 無償化の時期については令和2年4月にさかのぼって検討する。

どうなる栗原の警察署

市長／令和5年（仮称）栗原警察署が新設



議員 黒崎 洋次

議員 栗原市は、若柳警察署と築館警察署の2署体制である。（1）以下について、市ではどのような説明を受けているか。①統合のスケジュール②新たな警察署の場所③統合後の職員体

制（人員は減るのかなど）
（2）警察署の統合により、市民に与える影響は。

市長（1）①宮城県警の警察署整備計画では、（仮称）栗原警察署が令和5年4月に新設される見込み。②宮城県警から示されていないが、新聞報道などによると、志波姫南堀口地区の国道398号沿いと示されている。他の内容は、記載がないので答えられない。

新型コロナウイルスから市役所を守れ

議員 ①来庁者の皆様が、

市役所（総合支所も）玄関の入り口付近で、非接触で顔をモニター画面に写して検温（サーマルカメラなど）できるようにしては。（体温が高いときは、そこから帰っていただくなど）のお願いの表示をする。②検温とセットで手指消毒をする際、アルコール容器に触れなくても手をかざすと自動で噴霧する装置を設置してはどうか。

造成工事中の予定地（志波姫地区）

市長 ①②今後、本庁および各総合支所入り口に、非接触で検温と消毒が一体となった機器を導入する。体温が高い場合には、入庁されないよう掲示する。
【その他の質問項目】
 ▼進めよ「はんこレス化」
 ▼ドライブレコーダー設置に補助金を
 ▼婚活もオンラインで

病院縮小で市民の健康は守れるか

病院事業管理者／外来機能は現状通り維持する



議員 小野 久一



市民の健康を守る砦「栗駒病院」

公的病院が最後の砦ではないか。また救急患者の受け入れや手術はこれまでと変わらないか。

病院管理者 今回の見直しは病床数の適正化であり、外来機能は現状通り維持するので、受け入れに支障はない。救急は軽症・中等症の患者は受け入れる。

「道の駅」整備をやめ市民のくらし最優先に

議員 基本構想策定業務の報告があったが「断念」したのか「一旦立ち止まって数年後に再考しよう」としているのか理解できない。止まらない人口減少、運営主体が見つからない、27億円という莫大な工事費、基本構想検討委の否定的な答申など総合的に考えたら断念すべきでないか。

議員 栗駒病院では一般病床をなくし、医療型療養病床を45床にすることだが、医師体制・看護師体制はどうなるか。

病院管理者 医師配置は基準上変わらないが人事配置上、常勤医師は1人減となる見込みで、看護配置基準は20対1となり、9人減の20人と見込んでいる。

議員 栗駒・金成地区では民間の病院が閉院している。医師の高齢化が進んでおり、

市長 浮き彫りになった課題の整理とコロナ禍により先の見えない経済状況下であることから、一旦立ち止まって考えることにした。
議員 現存の道の駅や直売所への出荷手数料の補助で農家手取りを増やすべき。
市長 両者で手数料を定め運営しているものと認識。

教育こそまちづくりの礎では

教育長／ふるさとは栗原 そう思える教育を



ささき まさひこ 議員
佐々木嘉郎



小学校での英語授業

議員 憲法、教育基本法および学校教育法では、就学援助制度の必要性をうたっている。経済的理由で就学が困難と認められる児童生徒の保護者に、必要な援助を与えなければならない。
教育長 令和元年度に就学援助を受けているのは、小学生318人、中学生183人で増加傾向にある。
議員 1年間に産まれる子どもが300人前後。いかに経済的に困窮しているか

理解できるはずだ。修学旅行に経済的理由で参加しない児童生徒はいるか。
教育長 病気や新型コロナウイルス防から計21人いた。
議員 就学援助を受けた子どもたちに、未来の栗原づくりの担い手と期待している。「ふるさと」という文部省唱歌があった。「志をはたしにいつの日にか帰らん」となるよう、そんな教育をめざすべきでは。
教育長 栗原を思う心、そういう教育をしていく。
議員 農林水産省では、令和2年度から中山間地域等直接支払制度に、集落機能強化支援を新設した。農業に関するもの以外で「サロンの開設」「高齢者の見回り」「送迎」「買い物」「高齢者宅の除雪」などが対象だ。本市の取り組みは。
市長 取り組みはない。本事業の内容説明会を、各総合支所で開催している。
議員 ゴミ出しに困っているお年寄りも出てきた。どのような支援を望むか、耳を傾けてほしい。
市長 地域の将来の姿をどう描くかが問われている。しっかり取り組む。



来年度から児童生徒1人1台タブレット導入される



たかはし たかし 議員
高橋 将

1人1台タブレット導入の効果は

教育長／個別最適化された指導の充実を図る

議員 1人1台タブレット導入の効果は。
教育長 学習への興味・関心の向上。また、学習の記録（スタディログ）を積み上げ個別最適化された指導の充実を図る。

議員 保護者への説明は。
教育長 県全体で授業の進め方などを説明するリーフレットを配布予定。
議員 公営塾として家庭学習環境の体系化をしては。
教育長 学びの保証の観点から家庭での学習補助はやっていかなければならない。ネット接続率と教員の勤務形態の問題で現時点では実施困難である。
議員 校務効率化できるか。

教育長 令和3年9月に統合型校務支援システムを導入する。校務負担の軽減と情報の一元管理、教員間の情報共有ができるので、校務の効率化につながる。
説明会 の
多様化 を
議員 市の説明会には若い人の参加が少ない。コロナ禍で直接参加はさらに敬遠される。オンライン参加の手段を加え、情報発信を多様化すべきだがどうか。
市長 感染拡大防止や情報伝達向上の効果があると考える。できることから進めていく。
議員 農林漁業者向け経営継続補助金の上乗せ補助に予算不足が生じた場合、補助率変更はあるか。
市長 予算6100万円に対して経費が7720万円、1620万円不足の可能性がある。採択の状況によって柔軟に対応が必要だ。

姫松地区歩道用地管理はいかに

市長／安全に管理できるように整備する



さとう ふみお 議員
佐藤 文男

離はいくらか。

市長 全体延長920mのうち、372mが完了し、今年度も88m発注している。残りは460mとなる。

議員 未整備区間を残し置き場に活用しているが、旧構造物は市の責任において撤去されているか。

市長 不要な構造物は順次撤去を行う。
議員 歩道として活用しない場合、電柱を移動して道



まだ残る元の構造物

路として整備すべきだ。

市長 市道王沢・川崎線および市道姫松・金田線は改良済みであり、現状の幅員で一般の通行に支障がないことから、拡幅については考えていない。

なお、引き続き不要な構造物の撤去を行い、地域住民が安全に管理できるように整備していく。

湯浜温泉下流の登山道の復旧を

議員 岩手・宮城内陸地震により被害を受けた登山道復旧の進捗状況はどうか。また、湯浜温泉下流は復旧に向け、関係機関との協議はどうなっているか。

市長 国交省の災害復旧工事は終了し、林野庁においては、令和10年までの計画で取り組んでいる。

湯浜温泉下流の復旧は、可能であれば林野庁にぜひ参画するように働きかけていく。

命を守る生活道の整備を急げ

市長／別ルートで整備が必要な区域



いしかわ しょうとう 議員
石川 正通



「あっ、狭い」救急車両が入れるか

議員 築館高田地区の生活道は狭隘で、救急車両の進入が困難なことや、対向車との交差ができないなど、住民の安全を守る道路整備は急務であると思うがどうか。

市長 現道の拡幅は困難である。別ルートでの整備を行う必要がある区域と捉えている。緊急性など精査、調整の上検討する。

議員 横須賀地区、農道下宝田2号線、通称松原線は車の通行も危険な状況下に

ある。観光地、伊豆沼・内沼の所在地でもある。整備は急務ではないか。
市長 農道整備補助事業など模索し引き続き検討。

原点に返れ「道の駅」構想

議員 まずは、直売所を除く駐車場、トイレ、情報発信のできる道の駅を設置。その後利用、活用状況を見て直売所など拡充できないか。

市長 道の駅の要件は24時間利用できる駐車場、トイレ、情報発信機能、直売所など地域振興に資する施設が必要とされている。

議員 国では防災道の駅認定制度を導入するとあるがこの事業に取り組むことで道の駅実現につなげられないか。災害時の一時避難所や、瀬峰飛行場を活用した災害支援になるのではないか。

市長 認定要件は建物の耐震化、無停電化、水の確保、広い駐車場を備えるなど県の地域防災計画に位置づけが必要。今回2つの提案は道の駅実現への一つの考え方として参考にしていく。